

ブリテイッシュラグジュアリー その流儀に見る 一生定番品の ヒントとは

英国では上質な製品を長く使う文化が受け継がれてきた。そのスタイルを表すものとして、ブリテイッシュラグジュアリーなる言葉があるのをご存じだろうか。一生定番の品質を理解するにあたり、このキーワードはひとつのヒントになるはずだ。とはいえ、その世界観を正しく理解している人は、意外と少ないのではないかと。そこで、今回、英国文化や貴族品の歴史について造詣の深い、中野香織先生に話を聞いた。

まず、定番について尋ねると、次のような意見をいただいた。
「本質だけを捉えていて、可能な限り無駄を省き敬重しています。だから、意外とクセがなく、応用が利く、ほかのものを手に入ることがあっても、また気持ちが悪くなくて、一生付き合えるもの、それが定番です」

そして、話はブリテイッシュラグジュアリーへ。一般にラグジュアリーと聞けば、非常に贅沢な暮らしや高価な製品を想像するが、それは現代の話である。中野先生の話を聞くと、英国文化のなかで発達したラグジュアリーは、それとは異なる様相を呈していた。
「ラグジュアリー」は、かつては見せ

BRITISH LUXURY

びらかしの消費でした。それが19世紀に入ると知的な趣味が生まれ、輝びやかな世界が際立って見えるようになり、ダンディズムが誕生したのです」と中野先生。特に英国では、紳士的な意識改革とともに、知的な営みとして、ブリテイッシュラグジュアリーが醸成されたそう。中野先生によれば、ただ最高級の製品を所有するのではなく、対象のオリジンを理解しているか？作り手の技量を見抜けるかどうか？また、シーンに応じて正しく、使いこなすことができるか？といった鑑識眼や知識が、その人物の文化度を計るカギとなった。賢いTPOも、そうして育まれた考え方のひとつだそう。ダンディズムの世界において、ものの権威に頼ることはバカガキ（下品）とされました。とりま文化に対する知識が求められ、教養とマナーがセットになってブリテイッシュラグジュアリーが生まれました。ものの扱い方を覚えて人情が問われる。日本の文化でいうならば、茶の湯でしょうか？

「一生定番を考えるにあたり、ただ最高の製品を所有して満足するのではなく、その背景を知ったうえで、自身のさまざまなシーンに落とし込んでアジャストさせる。さらに長く使っていくことが、一生定番を愛用するうえで大切なのではないだろうか。中野先生にうかがったとおり、ブリテイッシュラグジュアリーは古いラグジュアリーの考え方が洗練していきなかに誕生したものである。一方、現代ではコンシャスラグジュアリーという考え方が生まれている。「コンシャスとは、意識し

ている」の意味です。大量に製品を作り、余ればそれらを廃棄する。人権を無視した環境で生産される新機軸（しんきようめん）を批判する。文化意用と思われるデザインを行うといった動きに対して、社会が反対の声を上げています。SNSの発達で、そうした事象が見えやすくなりました。現在、サステナビリティーの浸透によって、英国の重厚な紳士ブランドもいまは、政治的立場を明確にして、多様性に配慮するなど、変化しながら、最先端のラグジュアリーであろうとしています」



作家・服飾史家
中野香織さん

ラグジュアリー領域を中心に、研究、著述、講演、コンサルティングを行う。英国のラグジュアリーブランドの歴史、ウォルボールの研究、紹介にも努めている。

「物のオリジンを理解し正しく扱える教養を備える、
そんな知的な営みが英国にはある」